

河澄家

河澄家は、迎れる確実なところでは南北朝時代の応安二(1369)に入滅した日下連河澄与市大戸清正に溯り、江戸時代には代々作兵衛を名乗り日下村庄屋を務めた旧家です。寛政十年(1798)、日下村に隠棲していた上田秋成は第15代当主常之と親交をもちました。第19代当主雄次郎は教育に情熱を傾け、明治五年の「学制」に基づき小学校設立に私財を投じて力を尽くしました。また、雄次郎の娘ナミが富田林の旧家杉山家に嫁いで誕生した娘タカは、明星派の歌人石上露子として活躍しました。



棲鶴楼外観



棲鶴楼内部

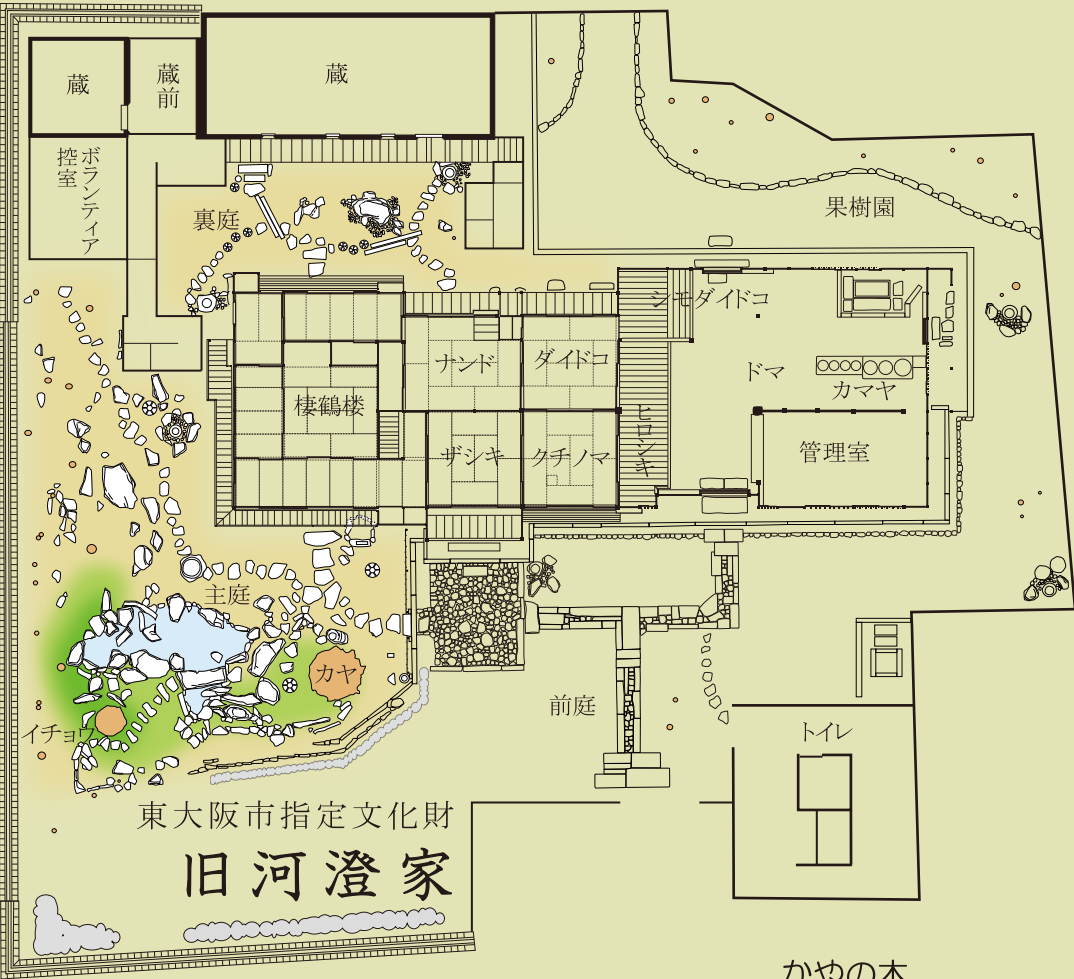
森公道、祖益など近郷文人が集まる文芸サロンとなっていました。現在の建物は天保六年(1835)の改築です。

住宅

敷地中央に主屋、その西側に『棲鶴楼』と呼ばれる奥座敷を備え、北側には長大な土蔵を配しています。主屋は改造、増改築は多いながらも江戸時代初期の様相を残しています。主屋の規模は桁行十二間×梁間五間半、向かって右手を土間とし、左手を四間取りの居室としています。建築当初の材は大黒柱・庭大黒柱などの数本であり、他は取替えられています。調査にも基づき復元整備しました。

棲鶴楼

主屋西側に付随して建てられた数奇屋風書院造りの建物です。桁行四間×梁間五間あり、主室は八畳間です。南側と西側に一間の鞘の間が廻り、北側に床の間を設けています。前身建物は慶安年間(1648～1651)に大阪西町奉行の曾我丹波守古祐が隠居するために作らせたと伝えられています。また、雨月物語の作者である上田秋成や唯心尼、



庭園

江戸時代初期の庄屋屋敷の庭園です。主庭は南面から西面にかけて築山を施し、中心に枯池を穿った枯池式枯山水庭園です。「棲鶴楼」の鶴に対して亀石組を組んで鶴亀としています。西側に大滝、南側に小滝を造り、南面に蓬萊山を構成した不死・不老の祝儀思想にもとづく作庭です。西部は礼拝石や立手水鉢を配し、飛石によって園内を回遊することができます。



棲鶴楼より主庭を望む



主庭(東より)

かやの木

主庭の東隅にある常緑針葉樹の大木です。雄雌異株であり、本樹は雌株です。4～5月に花が咲き、秋には2～4cmの紫褐色の実がなります。実は食用や油として利用されます。幹周が約5mあり、樹齢約500年と推定されています。昭和51年に「日下のかや」として市の天然記念物に指定されました。



カマヤ



ドマより居室



ザシキよりクチノマ



市天然記念物「日下のかや」